

当院における皮下埋め込み型中心静脈 カテーテル設置に関する検討

ふな つか まさ ひで はら だ あつし こ にし い ちろう
舟 塚 雅 英 原 田 敦 小 西 伊智郎
ない とう あつし すぎ はら とし お
内 藤 篤 杉 原 登司夫

キーワード：皮下埋め込み型中心静脈カテーテル（CVポート）、高齢者、
エンド・オブ・ライフケア

要 旨

皮下埋め込み型中心静脈カテーテル（以下 CV ポート）設置は、化学療法、栄養療法、エンド・オブ・ライフケアなど点滴療法目的で広く用いられており、近年その症例数は増加傾向にある。特に当院においては、松江圏域での急性期医療機関の後方支援病院という役割を担う立場にあることもあり、高齢者における慢性期、長期療養、およびエンド・オブ・ライフケア対象患者を、栄養療法・緩和・維持治療目的として設置する症例が非常に多い。（平均年齢：男性82.1歳、女性86.5歳）

今回、2011年1月～2018年12月までに設置した279症例に対し、設置目的や早期および後期のカテゴリーに分類した合併症の発生率などを検討し、高齢者におけるエンド・オブ・ライフケア目的での CV ポート設置に関して検討したので、若干の文献的検索を加え報告する。

はじめに

皮下埋め込み型中心静脈カテーテル設置（以下 CV ポート設置）数は、栄養管理目的で設置されることが多かったが、近年癌化学療法施行を目的として設置、使用されることが多くなってきており、急速に増加傾向を示している¹⁾。また、進行

再発癌患者、エンド・オブ・ライフケア患者などの生活の質（以下、QOL という）の維持、緩和療法などに大きく寄与する一方で、長期留置による様々な合併症も観察されるようになってきている^{2,3)}。

そこで今回われわれは、当院での CV ポート設置された症例を対象に、設置目的や合併症などを中心に検討および考察を行ったので報告する。

Masahide FUNATSUKA et al.

松江記念病院外科

連絡先：〒690-0015 松江市上乃木3-4-1

松江記念病院外科